

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 Unité					公表日	令和8年 3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		午前、午後で分け、法令基準を満たしつつ、限られたスペースを有効に使えるよう動線や活動内容を工夫しています。	時間帯等で手狭になる時は、より安全に過ごせるようレイアウトや運用の見直しを進めています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		法令基準に基づき職員を配置し、子どもの状態や人数に応じて支援に入る職員を柔軟に調整しています	一部の時間帯で支援が集中するため、より安定した支援が行えるよう配置や人材確保を努めます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	3	こどもが見通しを持って過ごせるよう、活動内容や空間をわかりやすく構造化し、特性に応じた環境づくりを努めています	一部の設備面では対応が難しい部分があるため、対応可能な別の事業所への情報を提供しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の清掃や受入れ前のスケジュール調整、課題や活動の準備を行い、こどもが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいます。	自立課題やカードの作成等の充実		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		子どもの状態や活動に応じて、個別の部屋やスペースを柔軟に使用できるよう環境を整えています。	より活動に集中できる環境づくりのため、配置の見直しを継続して行っています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	日々の記録や振り返りを共有し、PDCAを実践しています。また、即時に対応できるよう、OODA活用に努めています。	より参加しやすい仕組みづくりや情報共有の工夫を進めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向け評価表を通して意向を把握し、いただいた内容を日々の業務改善に1つ1つ生かしています。	より多様な意見を反映できるよう、意見を伝えやすい仕組みづくりを継続していきます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員の意見を共有する機会を設け、いただいた内容を業務改善に1つ1つ生かしています	改善されたところの明確化の工夫をします		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			風通しの良い事業所を目指します。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月の研修に加え、不定期で外部専門職による研修や助言の機会を設け、職員の資質向上に取り組んでいます。	研修内容の充実に向けて、より実践的なテーマや外部資源の活用方法を検討しています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、ホームページで公表することで、内容を分かりやすく公開しています。	より分かりやすい情報提供に向けて、内容の更新や説明方法の工夫を継続していきます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		一人ひとりに適切なアセスメントを行い、ニーズや課題を客観的に分析した裏づけのもとで支援計画を作成しています。	より質の高い計画作成に向けて、アセスメント方法や情報共有の工夫を継続していきます。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児発管だけでなく、支援に関わる職員が共通理解をもてる工夫をしながら、こどもの最善の利益を考えて支援計画を検討しています。	より質の高い計画作成に向けて、情報共有や検討方法の工夫を継続していきます。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員が共通認識を持ち、発言しやすい環境を整えることで、計画をイメージしやすい体制づくりを進めています。	より意見交換ができる環境づくりを行い、また職員の頭に残りやすい取り組みを行います。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	支援の裏づけのため、標準化ツールによるアセスメントと日々の行動観察を組み合わせ、子どもの適応行動を多面的に確認しています。	標準化ツールの目的や活用方法を共有し、実践と結びつけて理解を深められるよう取り組んでいます。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画の策定過程について職員間で情報共有し、共通理解のもとで支援を進めています。	より適切な計画作成に向けて、ガイドラインの内容や支援項目の選定方法を職員間で継続的に確認していきます。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		日々の振り返りの中でアイデアを出し合いながらチームで検討し改善しています。	より質の高いプログラム提供に向けて、検討方法や情報共有の工夫を継続していきます。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		先の見通しを持って支えるように支援するため、活動が固定化しないよう工夫し、柔軟に調整できる体制を整えています。	日々の振り返りをより効果的に、活動プログラムがさらに充実するよう取り組んでいます。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別支援と集団活動の両方を行えるよう、活動を工夫しています。	個別活動と集団活動の組み合わせ方や計画への反映方法について、職員間で共有を進めています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	毎朝、毎夕、前日からの申し送りや今日の支援方法、職員は配置などを確認し支援にあたっている。	欠席職員にも打合せ等の記録で情報共有を徹底し、全員が支援内容を把握できるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		日々の振り返りの中でアイデアを出し合いながら次の支援を検討しています。	欠席職員にも打合せ等の記録で情報共有を徹底し、全員が支援内容を把握できるようにします。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		担当職員が活動の様子や行動について日々記録を行っています。	担当職員以外の支援内容も共有し、記録をもとに改善につなげていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		法令遵守のもと、定期的にモニタリングを行い、必要に応じて期限前に計画を見直しています。	モニタリング結果を踏まえ、必要に応じて計画の見直しや支援方法の調整につなげていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	1	同法人内の相談支援事業所との会議には、担当児童の状況をよく理解した職員が参加しています。	適切な職員が参画できるよう連携体制を整え、相談支援との協働を強化します。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	保健・福祉・教育などの関係機関と情報共有を行い、少しずつ関係性を深めています。	今後も関係機関との連携を広げ、情報共有が円滑に行える体制を整えていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用や移行に向けた支援を行い、必要に応じて保育園等と支援内容の情報共有や相談対応を行っています。	今後も関係機関との連携を広げ、支援内容の共有や相互理解がより円滑に進むよう取り組んでいきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	移行資料を作成し、関係機関へ引き継ぎを行うほか、放課後等デイサービスとも情報共有を行っています。	今後も支援内容の情報共有を進め、関係機関との相互理解を深める取り組みを行っています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			児童発達支援センター設置なし。	様々な専門機関からの助言を受けたり、研修を受けたりしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		今後も保育園等との連携を進め、可能な範囲で交流の機会を検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃からHUGシステムや電話等を通して保護者と情報を共有し、子どもの発達状況や課題について共通理解を図れるよう努めています。	今後も保護者との対話を大切にし、発達状況の共有がより円滑に行えるよう取り組んでいきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	研修案内や地域の情報提供を行っています。また、言語聴覚士の個別支援では、可能な保護者には同席をお願いしています。	今後も保護者が参加しやすい形で、家族支援の機会を広げていきます。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		運営規程、支援プログラム、利用者負担について、利用開始時に丁寧な説明を行っています。	今後も分かりやすい説明に努め、必要に応じて内容の見直しや説明方法の工夫を行っています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントやモニタリングの際に、子どもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を踏まえて支援計画に反映しています。	今後も意向確認の機会を大切にし、子どもと家族の思いがより反映される計画作成に努めていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		児童発達支援計画を示しながら支援内容を説明し、保護者から同意を得ています。	保護者には制度や計画策定の時期について事前に説明を行い、児童発達支援計画が計画的に進められるようにしています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		児童発達支援計画を示しながら支援内容を説明し、保護者から同意を得ています。	今後も計画内容を分かりやすく説明し、保護者との共通理解をより深めていきます。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	地域の家族向け事業の情報提供を行っています。	今後は、無理のない範囲で保護者やきょうだいが参加しやすい交流の機会についても検討していきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	相談や申入れに対応できる体制を整え、電話・面談・HUGシステムを通して周知しています。相談があった際には、迅速で丁寧な対応を心がけています。	今後も相談しやすい環境づくりに努めていきたいと思えます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	1	文書、HUGシステム、ホームページ、SNS等を通じて、活動内容や行事予定などの情報を発信しています。	今後も複数の媒体を活用し、必要な情報がより分かりやすく伝わるよう工夫していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いには十分に配慮し、管理規定を設け、適切な管理体制を整備しています。	今後も見直しを行い、個人情報の適切な管理が徹底できるよう努めていきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		PECSを活用し、子どもの特性やベースに合わせた関わりや視覚的支援を行い、安心して意思疎通ができるよう丁寧に支援しています。	今後も子どもと保護者が安心して相談できるよう、分かりやすい伝え方の工夫を続けていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5	職員が地域の活動に参加しています。子どもによっては、人の股が難しい子どもへの配慮もあり、人の変化が起こらないようにしています。	どのような形態なら開かれた事業ができるか検討したい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等の各マニュアルを法令に基づき整備し、定期的に見直し、適切に対応できる体制を整えられるよう取り組んでいます
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		法令に基づき避難や救出などの訓練を定期的に行い、必要な対応ができる体制を整えられるよう取り組んでいます	今後も計画や訓練内容の見直しを行い、より実効性の高い体制づくりに取り組んでいきます。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1	利用開始時のアセスメントや日々の聞き取りを通して、服薬状況、健康状態を確認し、支援に必要な情報を把握しています。	今後も健康情報の変化を適切に共有し、実行していけるよう取り組みます。
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1		当事業所は食事提供がありませんが、利用開始時にアレルギーの有無を確認し、必要な情報を把握しています。	遅延性アレルギーにも配慮し、保護者と連携してアレルギー状況を確認しています。
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		子どもの安全確保のための計画を法令に基づいて整備、周知しています。定期的に見直し、適切な体制となるよう取り組んでいます	今後も安全計画や研修内容を見直し、より実効性の高い安全管理体制の維持に努めていきます。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	子どもの安全確保のための計画を法令に基づいて整備、周知しています。定期的に見直し、適切な体制となるよう取り組んでいます	理解してもらえような周知方法を検討したい。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を職員間で検討しているか。	6		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を職員間で検討しています。また、職員が報告しやすい環境づくりにも取り組んでいます	ヒヤリハットをよりよい支援につながる重要な情報として捉え、職員が報告しやすい情報が集まりやすい環境づくりに取り組んでいます
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止に関する研修機会を確保し、適切な対応ができるよう職員の理解と体制整備に取り組んでいます	虐待は支援の質や理解不足から起こり得るとの視点を持ち、適切な支援が行えるよう学びを深めています	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		現在、身体拘束を必要とする子どもはおらず該当する対応は発生していませんが、契約時に身体拘束に関する説明を行い、方針を共有しています	支援の質向上に向けて学びを継続し、身体拘束の範囲についても理解を深めながら適切な判断に努めています	